

栗津實『アウトゲームの栞：女子新体育技』における出手について

一階千絵（群馬県立女子大学）

今回の発表は、栗津實という人物により考案され、同氏の著書『アウトゲームの栞：女子新体育技』（1925（大正15年）、日本婦人体力改造同志会出版部刊）にて発表された競技「アウトゲーム」における出手（相撲の決まり手に相当）の分類や解説から技術体系を明らかにし、女性が相撲を行いやすくするためになされた改変の一端を明らかにすることを試みるものである。

「アウトゲーム」は、「素手の二人が、一定の限定輪（発表者注：相撲の土俵に相当）内に於て、押力を争ひ、出し合ひをなす體育技」である。相撲を基礎とした競技であるが、女性や児童が行うことを想定し、使用する技を限定する、まわしを着用せず帯にて代用する、「安全輪」という休息をとれる区域を設定する等の改変が加えられている。これらはいずれも実施者やその周囲の「女性的でない」「古臭い」といった相撲に対する抵抗感を軽減させる効果を狙ったものと考えられる。

特に技である「出手」に注目すると、相撲の技術体系から「投げ」「掛け」「反り」等の要素が排除され、「突き」「押し」「寄り」「吊り」に特化している。中でも栗津はアウトゲームの和名として「押力競技」と命名するなど、「押し」を重視している。この改変による相撲との差別化、技術体系の整備に関する栗津の意図等を『アウトゲームの栞』より読み解いていきたい。